



## 地域におけるSDGs教育の可能性

国連大学 サステイナビリティ高等研究所  
いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット  
事務局長 永井 三岐子

2019. 02. 07

# いしかわ・かなざわオペレーティングユニット (Operating Unit Ishikawa/Kanazawa :OUIK)

## 地域創生と国連プロセス、国連加盟国への貢献

**設立:** 石川国際協力研究機構を前身として2008年に石川県、金沢市、国連大学IASにより設立。国連大学IASが国内に持つ唯一のフィールドオフィスとして活動

**コアミッション:** 石川の豊かな生物文化多様性、里山里海保全、活用のための政策提言型の研究を通じ、持続可能な地域作りに貢献する

- アプローチ**
- 1) 地域多様な主体、グローバルパートナーとの協働と共同研究
  - 2) 協働を通じた人材育成
  - 3) 地域からの学びを国際ネットワークで発信、地域にフィードバック

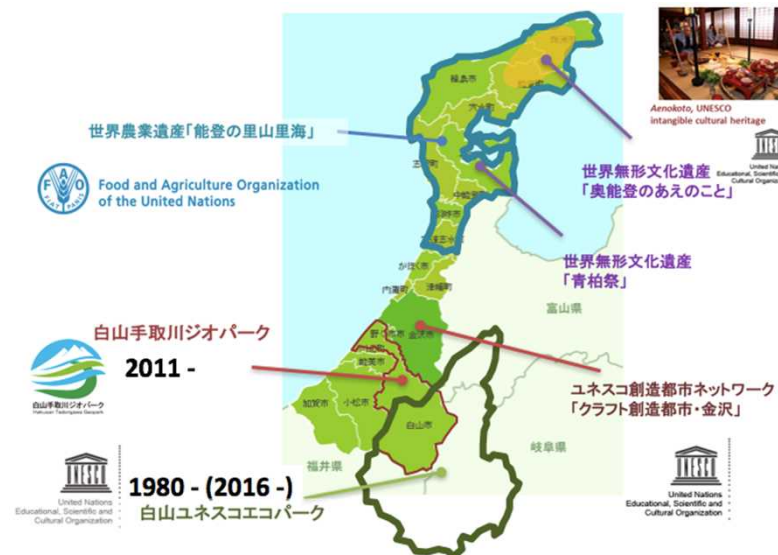


## グローバルプロセス・ネットワーク

- 生物多様性条約・愛知目標 (CBD) 2010-2020
- 能登の里山里海 (FAO世界農業遺産) 2011-
- 金沢市・ユネスコ創造都市ネットワーク 2009-
- 白山ユネスコエコパーク (UNESCO MAB) 2016(拡張登録) -
- 持続可能な開発目標 SDGs 2015-2030

## 主な活動実績など

世界農業遺産国際会議 2012年七尾市  
生物文化多様性圏 いしかわ金沢モデル 2015年5月  
第一回アジア生物文化多様性国際会議 2016年10月  
OUIK生物文化多様性シリーズの発行 など



# 地域でのSDGs実践⇄SDGs教育

## 採択直後より地域にSDGsを紹介



水の問題から考えるSDGs（泉丘高校SGHプログラム立ち上げにアドバイザーとして参画 2015年9月）



SDGsから考える地域の人材育成  
（地域づくりをSDGsの視点で整理  
2015年11月）  
里山里海マイスタープログラム  
（株）禊川大学  
（株）ガクトラボ など企業/地域イ  
ンターンシップ、社会人教育を議論



第1回アジア生物文化多様性会議 ユースセッション  
（地域の高校生がタイ、ロシアの高校生、大学生と  
地域の生物資源、文化資源の持続可能性につき議論、  
発表 2016年10月）



小松サマースクールにおける SDGsセッションの導入（2016年  
第1回）

# SDGsいしかわ・かなざわダイアログ2018年

6月4日キックオフ



7月29日 SDGsを理解する映画上映会  
「みんなの学校」 「バベルの学校」



8月7日シンポジウム；  
地域企業とSDGs（ジェンダーと環境から。  
UNWomen石川所長、沖国連大学上級副学長らと）



8月31日 国際シンポジウム：  
グリーンインフラとSDGs



11月20日  
第2回LGBTと教育フォーラム

SDGsによる社会的対話  
普及啓発のため、17ゴール毎に  
地域のパートナーとイベント、プロジェクトを実施

総括シンポジウムを3月23日(土)に開催予定

9月23日 市民による太陽光発電所、風力発電所の視察ツアー



10月23日  
ダイアログインザダーク  
「暗闇だからこそその可能性」  
トークショー



10月3日  
生物文化多様性とSDGs



10月1日 珠洲市  
「能登SDGsラボ」設立



9月27日  
ダイバーシティの働き方改革



エンパワープロジェクト  
(協力者カミングアウト)  
金沢の発足

# 小松サマースクール(KSS)



- ❖ 日本（東大、慶応、早稲田、金沢大学他）と海外（プリンストン他）の大学生が共同で事務局を務め、高校生に英語でリベラルアーツを教えるサマープログラム（代表理事 ステファン・フーシェ）
- ❖ 社会人が体験を語るセッション、交流を測るセッション、文化体験などからなる6日間のプログラム
- ❖ 2018年度 国際交流基金地球市民賞を受賞

## **2016年からOUIKIはSDGsセッションを共催**

2016年 第1回 「SDGsを知る。グローバルなつながりを考えるワークショップ」 慶應大学蟹江教授が講師

2017年 第2回 「多様性からSDGsを考える」 ゲスト：松中権氏（グッドエイジングエールズ代表）、LGBT当事者らによる話題提供と多様性を認めるためのワークショップ

2018年 第3回 「差別を考える」ワークショップ ゲスト：伊是名夏子（コラムニスト）、松岡宗嗣（一社fair代表）





## 参加者からの感想

自分の認識の低さに嫌気が差した。日本人の多くは大学を卒業して、会社に就職し、ロボットのように生きている。夜の満員電車などまるで貨物列車のように生気がない。僕もそんな人生を送るのかと安易な想像をしていた。唯一考えていたのは世界と関わりを持てる仕事に就きたいという事。しかし、それは余りに浅はかだ。僕は完全に井の中の蛙だった。アメリカの大学生と話をしたり、世界を舞台に活躍する方々の話を聞いたりする中で、本当に自分がしたい事は違うのだと気が付いたのだ。

KSSでは、自分の弱さや将来への改善点を別の視点で知る事が出来た。それに加え、様々な価値観と出会えた事で、自分の成長に大きく繋がる6日間となった。高校2年／男／東京

「自分を見つめ直す場所。」それが私にとっての小松サマースクールでした。

夢や目標はそれぞれでも、高い意識や強い想いを持ってKSSに参加した高校生たち。そして、多彩な道を歩んできた大学生たち。彼らと話し合う中で私は、自分の意見の浅さに気付いたり、彼らの意見に共感したりしながら、自分の考えがどんどん深く、広くなっていくのを感じました。また、自分の想いや将来について深く語り合えて、自分を表現できたことは本当に楽しかったです。

様々な考えと価値観、バックグラウンドを持つ人達という多様性の中にいたからこそ、私は自分自身の個性を見つめ直すことができ、自然体で過ごせたのだと思います。

KSSで見つけた本当の自分を大切に、これから飛躍していきたいです。高校1年／女／福井

Before KSS, my interactions with Japanese students were mostly limited to exploring points of difference in language and culture. Through teaching at KSS, I was given the chance to find common ground and to reconsider how to communicate effectively independent of language. By attending cultural events and motivational talks with the students, I felt like a participant rather than just an observer even outside of the classroom. KSS confirmed and bolstered my wish to engage with Japan going forward.

小松サマースクールへの参加は今年で2度目になります。高校生参加者として参加した去年と一番大きく変わったことは、大学生としてプログラムを作り高校生に届ける立場になったことです。初めの頃は作るといっても何をどうすればいいのかわからず、他の実行委員の方々に迷惑ばかり掛けてしまいました。それでも支えてくれる先輩方のおかげでなんとかプログラムを一つ形にすることができ、改善点を多く残しつつも成功させることができました。このプログラムを1から作り上げるという経験は僕にとってはものすごく大きく、これだけでも非常に多くのことを学べました。

また、今年のハウス制度にはEC(実行委員)もハウスの一員として組み込まれていたことで同じハウスの高校生を始めとしてとても高校生達と関わりやすく、事前の想像以上に高校生達と仲良くなることができ、本当に嬉しかったです。東京に出てきて4ヶ月が経ちますが、横のつながりや先輩とのつながりはたくさんできるなか後輩とのつながりはここで初めてできたものなので少し大学生としての姿勢も身についたかと思っています。

KSSは高校生に何かきっかけを届けることはもちろん、その過程できっかけを届ける側にいる大学生にも学びがある。とても素敵なプログラムだと、今KSSを振り返りながら改めて感じました。(大学1年・小松サマースクール2014参加者)

# 地域資源(里山里海)の価値を次世代に



**おとなのための解説**

**■絵本「むっつおをつくろっ」について**  
この絵本は、熊倉に住む主人公のやなとほるとが、一年を通しておじいさんとおばあさんに教えてもらいながら秋祭りのごっつん(ご豊登)作りを体験するストーリーです。まぶさと一緒に、新設の里山の里山で米や野菜づくり、果や野菜の調達、味噌づくりなどの体験をしながら、豊登の農業の仕組みを支える意思や伝統知識の習得の面白さや不思議も学ぶことができます。この絵本が、熊倉ならではの環境を活かした、見る、聞く、触る、味わう、嗅ぐといった五感を使った経験的な学びや体験を子供たちが得るきっかけになれば幸いです。

熊倉の里山里海は2011年に世界農業遺産®に認定されました。昔から熊倉で営まれてきた自然の恵みを活かした生産様式(ライフスタイル)には、持続可能な社会の実現のためのヒントが数多く含まれており、世界的にも価値を持つものとされます。



「石川熊倉半島」に広がる「熊倉の里山里海」は、国際連合食料農業機関(FAO)により世界農業遺産(IAA)に認定されました。この認定は、その土地の環境を築いた伝統的な農林漁業や生物多様性が守られた土地利用、農村の文化や景観などが一帯として維持保全がはかられている世界的に重要な地域を、後世に引き継ぐことを目的としています。現在、認定地帯には40の集落が含まれています。



秋祭りのお祭り(熊倉島)

まつりのご馳走から、生態系サービスや地域文化を辿る絵本 (小学校低学年向け) 監修には、地域の生態学者、地域文化の専門家、デザイナーなど専門家 小学校、地域の公民館、保育園での読み聞かせ。 授業での展開を模索するため、能登地域教育関係者と協議中。

## よぼしこの森 (まるやま組)

輪島市三井小学校の課外授業をまるやま組が企画。地域の農林業従事者、企業(中越パルプ)をつなぎ地域の木が紙になるまでを学ぶ。



# 1 + 1を3にする文化(価値観)多様性授業



お話を聞いて、ぼくは、いろいろな人たちとちがうところをたくさん考えたくまりました。永井さんは、フランスとモンゴル、日本の共通なども分かったなんて、ぼくは、人間くらいしか思いうかばないです。石川と世界は繋がっている、なのでいろいろな共通点を見つけてみたいです。



## 北陸学院小学校(2019年1月30日)

「違う」と「同じ」ってなんだろう  
フランス、タイ、モンゴルの文化紹介、モンゴルからの転校生を受け入れるワークで異文化とのつながり方を体験

Understanding different culture for sustainable development  
創価大学 (2018年11月30日)

JAIST 社会人セミナー FY2018 地域人材育成セミナー第3回 【水曜学ばしよう】  
*Learning for solution* 社会課題の解決をデザインする 北陸先端科学技術大学院大学知識科学系

### 異文化コラボで1+1を3にする ~違いを魅力に変えるコミュニケーション~

永井三岐子さん  
 国連大学サステイナビリティ高等研究所  
 いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット 事務局長

2018 6/27 (水) 18:00-20:00  
 会場: JAIST(北陸先端科学技術大学院大学) 金沢駅前オフィス ボルテ金沢 (9階)  
 定員: 25名 参加費無料 事前申し込み要

違う文化を持つ相手とのコミュニケーションは難しいと思いませんか。実は、異文化とコラボすることで「すてきになれる」のです。それが今回のセミナーのテーマです。  
 講師は国連大学サステイナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニットの永井三岐子さんです。タイ、モンゴル、フランス、途上国、先進国を問わない異文化との格闘から、相手がこの人なら仕事したい、と思うすてきなコミュニケーションを実現するスキルを身につけた体験を伺ってワークします。違いを魅力にする世界を知る時間を楽しみませんか。

■講師プロフィール:  
 上智大学仏語学卒業、政策研究大学院大学修士(国際開発)。フランスにて不動産会社に勤務の後、JICAモンゴル事務所、国連大学グローバルイノベーションセンター、水辺野の気候変動適応プロジェクトコーディネーター(タイ)など、遠隔分野での国際協力と研究活動のマネージメントに携わる。2014年より国連大学サステイナビリティ高等研究所の国内唯一の地方家系の事務局長として、主に遠隔分野の持続可能性に関する学術研究と政策の統合を軸に政策提言をローカル、グローバルに展開。

北陸先端科学技術大学院大学  
 社会人向け講座 (2018年6月27日)



# 国際地域認証制度の枠組みを利用したコミュニティ間の学びあい

## 世界農業遺産(GIAHS)

認定地間のtwinningを推奨 (イフガオ棚田との共同プロジェクト)

途上国のGIAHS認定申請を支援。自治体によるGIAHS国際協力プログラムとしてNPOなども支援



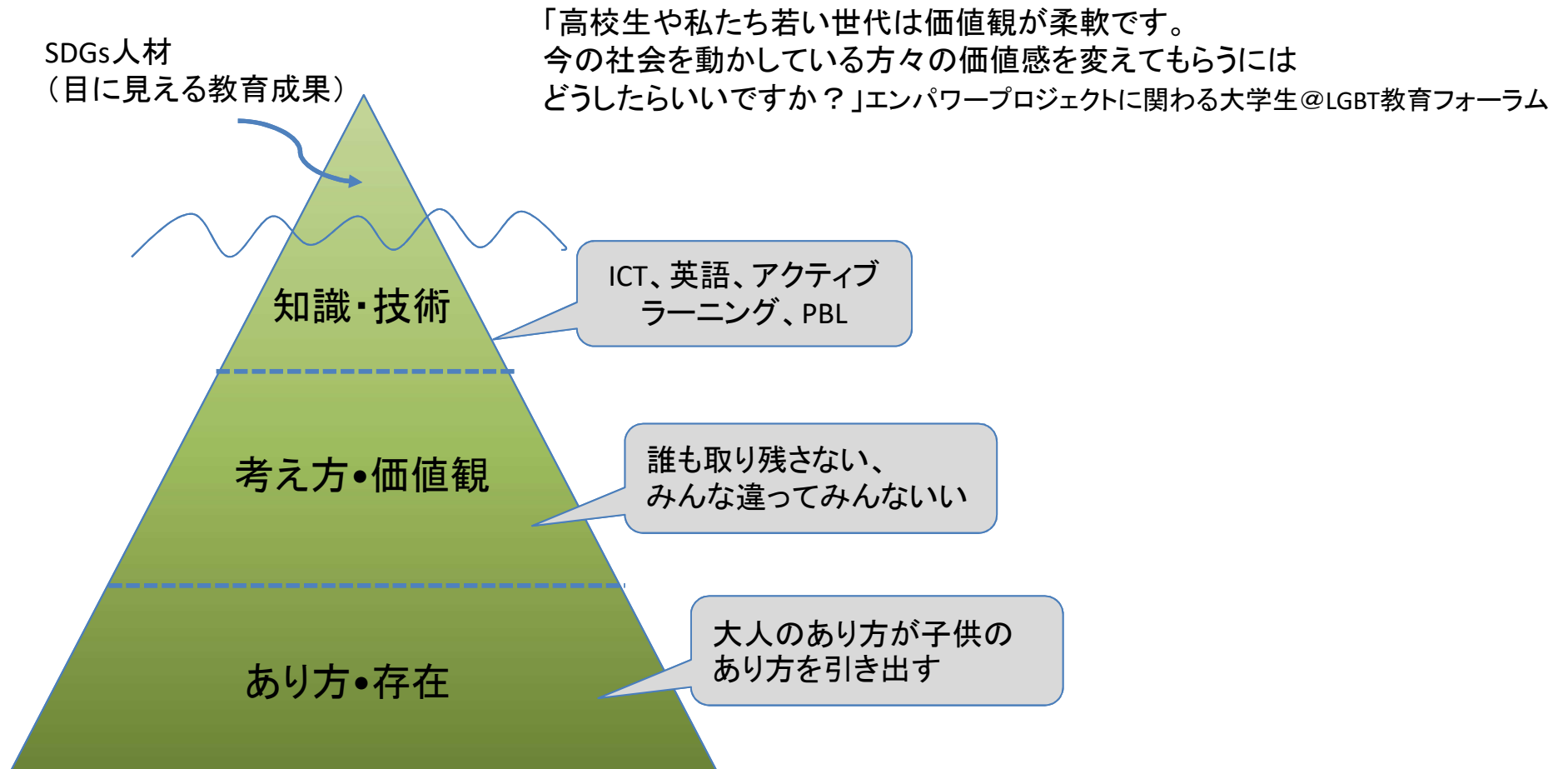
## エコパークアジア(2016 7月、10月)

白山ユネスコエコパーク協議会とOUIKがユネスコ国内ODA補助金を活用し実施

エコパーク管理運営自治体などから実務者を招聘 (カザフスタン、インドネシア、ブータン、モンゴル、ミャンマー、ベトナム、タイ)  
リマアクションプランの実施をテーマにフィールド視察、ワークショップなどを開催



# SDGs教育で問われているところ



絵:「かかわり方の学び方」西村佳哲より